

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141	A-169	13-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
Alcohol use among Mexican American U.S.-Mexico border residents: differences between those who drink and who do not drink in Mexico. メキシコ-アメリカ国境に住むメキシコ系アメリカ人の飲酒状況			
執筆者			
Caetano R, Mills BA, Vaeth PA.			
掲載誌			
Addict Behav. 2013 Apr;38(4):2026-31. doi: 10.1016/j.addbeh.2013.01.005.			
キーワード			PMID
メキシコ系アメリカ人、メキシコ-アメリカ国境、飲酒、多量飲酒			23391852
要 旨			
<p>目的： メキシコ-アメリカ国境地域（とりわけメキシコ側）は、他地域と比較して低収入、インフラ整備の不良、薬物関連の傷害事件多発といった問題を抱えている。本研究では、この地域に住むメキシコ系アメリカ人の飲酒量、多量飲酒の頻度、アルコール依存の頻度等を調査した。</p> <p>方法： 対象はメキシコ-アメリカ国境地域に住むメキシコ系アメリカ人（人種は自己申告による）のうち、過去 12 ヶ月に飲酒経験のある 1,307 名（回答率 67 %）。調査はインタビュー形式で実施された。多量飲酒の定義は 2 時間に男性 5 杯以上、女性 4 杯以上とした。</p> <p>結果： メキシコ側で飲酒すると回答した群は、そうでない群と比較し有意に飲酒量が多く（12.8 杯 vs. 8.7 杯/週）、過去 12 ヶ月で 1 回以上の多量飲酒経験を有する割合が高く（58.3 % vs. 35.4 %）、飲酒関連トラブル（事故、逮捕、健康障害等）経験を有する割合が高値（35.5 % vs. 19.5 %）であった。メキシコ側で飲酒する群のうち、男性の 1 日あたり飲酒量が女性と比較して高値（6.2 杯 vs. 4.0 杯）であった。男性、低収入がメキシコ側での飲酒者の特性であった。</p> <p>結論： メキシコ-アメリカ国境地域において、メキシコ側での飲酒状況が明らかとなった。本研究は横断調査であり、因果関係については言及不能である。また、67%という回答率の低さから、調査参加者にバイアスが含まれている可能性がある。</p>			